

種名	<u>コ オ イ ム シ</u> <u>Diplonychus japonicus</u> 
分類	カメムシ目コオイムシ科
形態的な特徴	体色は黄褐色、前脚は鎌のような形の捕獲脚になっている。尾端に伸縮自在の呼吸管があり、取り入れた空気は翅と腹部の間にためる。触角は短く、複眼の下側に隠れていて背面からは見えない。口吻は太くて短い。卵を雄の背中に産みつけるため発見しやすい。
分布	本州、四国、九州に分布する。
繁殖行動	雌は雄の背中に50～100個の卵を産みつける。雌は産卵が終わると泳ぎ去り、雄が卵の世話をしたり外敵から守ったりする。産みつけられた卵は一匹の雌のものとは限らない。泳ぎが苦手で水草などの中に潜んでいることが多く、冬になると水のなくなった小川の小石の下や田んぼの畦わりの下などに入って越冬する。
生息場所	小川や谷地田、水田、池沼などの止水域に生息する。水草などの植物が豊富で浅い水域に生息する。
食性	幼虫も成虫も水生小動物などを前脚で捕らえ、口吻を刺して体液を吸う。モリアライなどの巻き貝を食べることもあり、餌が少ないときは共食いすることもある。
生息環境への配慮事項	水田環境に適応した種であるため、農薬や農地整備などの影響を受けやすい。また、ため池などが護岸されたり水草が減ることは、本種が減少する要因となる。
その他	準絶滅危惧(新潟県RDB) 準絶滅危惧(環境省RDB)
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	